日本家庭医療学会会報

第54号

発行日　2005年11月1日

ホームページ : http://jafm.org/　E-mail : jafm@a-youme.jp

第17回医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー報告

第17回 医学生・研修医のための 家庭医療学夏期セミナー

プログラム

開催日時　2005年8月6日（土）～8日（月）

場　　所　セミナー会場1　朱鷺メッセ・新潟市

　　セミナー会場2　割烹の宿　湖畔・新潟市

参加者数　191名（講師数:51名）合計:242名

1日目

「家庭医療について知る、語る」

「家庭医療実践と教育の現場より」

2日目

「家庭医療を学ぶ、深める」

「家庭医に必要な技能、診療各論」

夢の芽吹き

新潟大学医学部5年　**前川　道隆**

2005年夏期セミナーまでの一年間学生・研修医部会の代表を務めました新潟大学5年の前川道隆と申します。前回の夏期セミナーに初めて参加し、右も左も分からないままにお請けした役職でしたが、これについて少々紙面を汚させて頂ければと思います。

「日本家庭医療学会 学生・研修医部会」の代表、なにやら立派な響きではないか。家庭医療を理解している学生や研修医の代表的存在なのだろうか。プライマリ・ケアの深奥でも感じ取れる超優秀な学生なのだろうか。多くの方はしばしば誤解して下さった。また期待もして下さった。

（次ページにつづく）

この号の主な内容

第17回家庭医療学夏期セミナー報告 … 1

運営委員会議事録 …… 4

家庭医療後期研修プログラム検討会議事録 … 6

研究委員会からのお知らせ …… 6

第1回後期研修プログラム構築のためのワークショップ 7

お勧めCMEコーナー …… 7

リレー連載　診療所研修 …… 8

【Information】

第13回家庭医の生涯学習のためのワークショップ 9

若手家庭医のための第1回家庭医療学冬期セミナー 9

第2回後期研修プログラム構築のためのワークショップ 10

事務局からのお知らせ …… 11

しかし、何も分からないところから始めた部会代表である。そんな期待とプレッシャーを他所に、むしろ開き直るしか無い。代表就任直後には、「家庭医療とは何ぞや」などという難しい話をすることなど、能力と知識と経験の不足により到底出来たものではなかった。まだプライマリ・ケアの現場をほとんどメディアを通してしか知ることの出来ない学生の立場では、感じることをそのまま表現するより他に出来ることは何も無い。多少なりとも家庭医療の知識を仕入れるも、それを自分以外の人に伝えるというよりは、ここが分からない、ここが伝わってこないと喚くばかりである。ただ、これは出来の悪い私だからということでも無さそうなわけで、家庭医という医師の実像がおぼろげながらでも見えている学生なんぞ、一部の優秀な者を除いては少ないのではないだろうかと思っている。それでも夏期セミナーにこれほど多くの方が参加して下さったのは、患者さんの身近にいてお役に立ちたいという彼らの中にある家庭医マインドのためでは無かろうか。

私にとってこの夏期セミナーと学生・研修医部会代表は人生の大きな転機となった。まだ人生の舵取りの上手く出来ない若輩者ではあるが、一年間で多くの仲間や先輩たちに支えられ掛け替えの無い経験を積むことが出来た。言葉では表現できるものではないが、この場を借りて心より感謝申し上げたい。また、これから先も夢の芽吹く場所としての夏期セミナーが発展していくことを願ってやまない。これから10年先に、今の仲間たちと夏期セミナーの講師として再会したいものである。

夏期セミナーを終えて

三重大学3年　**辻川　衆宏**

去る8月6～8日に、新潟市において医学生・研修医のための第17回家庭医療学夏期セミナーを開催しました。今年も、全国から参加者とセミナーを盛り上げてくださる講師の先生方が一同に集まり、熱気あふれる3日間となりました。参加者の皆様、講師の先生方、本当にありがとうございました。

今回のセミナーは初日に「家庭医療を知る」、2日目に「家庭医療を学ぶ、深める」、3日目に「家庭医療を考える」というコンセプトのもとに行われました。今回からの新しい試みとして、全体を通じてセミナーで得たものへの振り返りを行い、参加者どうしが語り合う場を設けました。ともすれば受身となってしまう講演会やセッションも、自ら語ることで考えを整理したり、他の人の意見を聞いて更に自分の考えを深める機会となったのではないかと思います。また、本セミナーに初めて参加する方、リピーターの方、家庭医療をまったく知らない方、ある程度知っておられる方、学生、研修医の先生、講師の先生が入り乱れて意見を交わすことで、お互いに得るものがあったのではと思います。

初日は、葛西先生、松下先生による講演会が行われ、家庭医療の雰囲気を掴み取りました。2日目、3日目セッションでは、家庭医療の第一線にいらっしゃる先生方によるセッションがあり、家庭医療を支えるテーマを扱いました。多くの参加者の方より、「魅力的なセッションが多く、もっと受講したい！」というお声を頂きました。また、懇親会では全国から集まった将来、医療を共に支えていく仲間と語り合い、深夜まで話が尽きませんでした。

今回のセミナーでの家庭医療との出逢い、仲間との出逢いが今後の参加者の皆様のお役に立つことをスタッフ一同願っております。既に次回のセミナーに向けて、新スタッフが少しずつ動き出しておりますので、前を見て、来年も充実した夏期セミナーとなるように志と熱さを引き継いでいきます。また来年、夏期セミナーで!!

家族との関わり合い

岡山大学6年　**大木乃理子**

このセッションでは家族図の書き方、家族のライフサイクルと発達課題、家族カンファレンスについて学んだ。家族図からはその家族がどのライフサイクルでどんな課題を抱えているかがみえてきた。また家族カンファレンスを通して、家族の主張を受け止めながらゴールに導く、医師の役割が体感できた。

シネメデュケーション

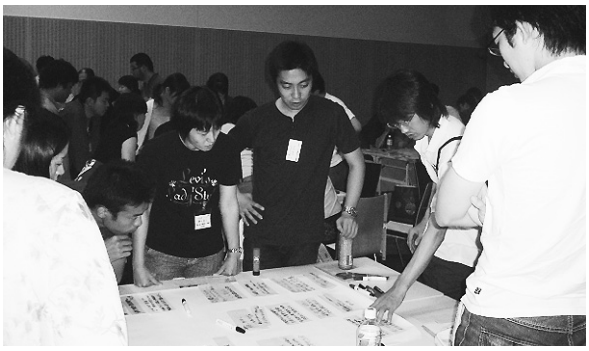
福島県立医科大学6年　金子　春香

今回は２つの映画を見ました。参加者１人１人が映画から感じたこと考えたことを発表しあうことで、互いの思いを尊重することや、同じ物を見ていても自分とは異なる新たな視点があることに気付きました。そして、発言にはその人の経験や人生観などが映し出されていると感じました。日常生活においても、人の思いを素直に聞く姿勢や、同じ物を見ても違う感じ方をもつ相手を大切にしようという思いを学びました。

EBM初めの一歩～診断を例に～

新潟大学5年　漆原　由佳

ＥＢＭとは患者さんの訴えから何が有益かを抽出し評価するという一連の臨床判断により成り立つことを、一つの症例から学ばせて頂くのに、一人ではなく小グループでの発想の展開が非常に有益であったと感謝している。ポイントを絞った統計学的評価法の講義と、それを道具として使えるように臨床判断へと結びつけるという流れに乗り、時間があっという間に過ぎていった。終わった後すっきりと、かつ充実感のあるセッションだった。



災害医療
～新潟中越地震から学ぶCommunity-Oriented Primary Care～

新潟大学5年　漆原　由佳

災害コーディネーターの育成や通信網の設備など、国をあげての対策が早急に求められることは間違いないが、いつどこにいても結局自分の身を自分で守るという決意が必要で、それは常日頃からの備えに反映されてこそ十分に強いものであると言える。自分の心がけのレベル一つでまず大きく変わることに身が引き締められる思いがした。災害時に経時的にニーズが移り変わっていくことをこれまでの経験から学び、先回りして対処するのが医療者の責務であることを忘れたくない。

家庭医の家庭

帝京大学5年　熊崎　俊樹

本セッションは小グループでのディスカッションと、医師として働きながら子育てなどの家庭生活を両立させている3人の講師の先生方の個人史を2つの柱としていた。ディスカッションでは参加者がお互いにどの様な考え方をして、どんな点に悩んでいるか、今までの自分になかった視点で考えさせられた。また、先生方の個人史は示唆に富み、大いに刺激を受ける内容であった。頭や手を使って学ぶと言うより、より生活に根ざした大切なことを心で感じ取る、そんなセッションではなかったかと思う。一見困難と思われる医師の仕事と家庭人としての生活の両立も、先生方のおっしゃった「bestを探すのでなく、betterを切り拓く」精神で可能になるのではないかと思った。

日本家庭医療学会 運営委員会 議事録

日　時：平成17年8月7日（日）　8時30分～10時30分
場　所：朱鷺メッセ　小会議室　204号室・307号
出席者：会　長　山田隆司
　　副会長　竹村洋典、葛西龍樹
　　監　事　津田　司、鈴木富雄（代）
運営委員　内山富士雄、岡田唯男、木戸友幸、武田伸二、名郷直樹、藤沼康樹、前野哲博、
　　松下明、山本和利
　　第21回学術集会大会長　大園　恵幸
　　若手家庭医部会　山下大輔
　　学生・研修医部会　前川道隆

【議事】

1. 会員数報告，新入会員承認，会費未納退会者の報告

山田会長より、7月28日現在の会員動向の報告があった。

会員数　1,240人（うち、医師会員が1,034人）
入会者：　65名
退会者：　4名
未納者：　74名（H13まで納入済）

引き続き山田会長より、平成13年度以降の未納者は、学会事務局から請求書を送ること、懸案のクレジットカード決済については事務局のあゆみコーポレーションで検討中であることが報告された。

2. 第20回学術集会決算報告

山田会長より今回の学術集会は、WONCAと一体型で行われたことにより、特に家庭医療学会としての会計は設けていないことが報告された。WONCA全体の決算報告については、資料が出来次第、次回の理事会で報告することとなった。

3. 2005年会計年度中間報告

山田会長より、2005年会計年度中間報告が報告された。また、委員会などを開催する際に必要な旅費等の必要経費について、無制限ではないが支給したい旨が述べられた。

夏期セミナーの講師へ謝礼を渡せるようにしたいとの要望が出され、学会から補助を受けるためのルールを次回運営委員会で検討する旨が提案された。

4. 常設委員会報告

・編集委員会

藤沼運営委員より、事務局のあゆみコーポレーションに編集作業を依頼し、編集作業の簡易化を図ったこと、年2回の発行を行ったことが報告された。

・広報委員会

松下運営委員より、前回の運営委員会で会報を年4回発行することが決まっており、次号は夏期セミナーの報告を掲載して11月前頃に発行の予定であることが報告された。

また、WEBに運営委員の紹介を掲載する提案があり、メーリングリスト上で写真とあいさつ文の提出を依頼することとなった。

・研修委員会

武田運営委員より、本年11月12・13日に東京・全共連ビルにて開催予定の「第13回生涯教育ワークショップ」の内容について報告があった。会場への前払金などの関係で、学会からの資金補助を受けたいとの要望が出され、了承された。

また、同時期に開催される他学会の行事との合同開催（または共催）について提案があり、意見交換が行われた。

また、NPO法人化に伴い、今後は事前に事業計画と共に、担当理事から予算を提出することが確認された。

・研究委員会

学会賞、研究課題についてまだ動けていないことが報告された。その中で、「臨床研究初学者のための勉強会」について論議され、事業として打ち出し、参加

者はオープンに募ることにより、経費は収支決算の中で処理していくことを検討していくこととなった。

学会賞については来年度から進め、年齢の制限を設けずに課題研究の募集をすすめ、会誌「家庭医療」への投稿を義務付けることが提案された。

・倫理委員会

山本委員より、倫理委員会の方向性を学会ホームページの倫理委員会内に公開していること、7月末から1件の倫理審査を行っていることが報告された。また、資源を共有するために、倫理委員会報告を学会ホームページで公開することを検討していることが報告された。

・家庭医療プログラム・専門医認定検討委員会

山田会長より、プライマリケア学会、総合診療学会、日本家庭医療学会の三学会による家庭医療専門認定に関する意見交換会について報告がされた。

審議の結果、家庭医療学会としては、基本路線となる初期スーパーローテーションを終了した人のための後期研修プログラムを整備し、その一方で他学会と協調しながら再研修プログラム、生涯研修プログラムを構築していくことが提案され、了承された。

専門医認定制度について論議がおこなわれ、市民の声を聞きながら、情勢を見ながら進めていくことが確認された。

5.ワーキンググループの件

（1）家庭医療後期研修調査

若手家庭医部会の山下先生より、名称を若手家庭医部会プロジェクトに変更することが提案され、了承された。また、7月に家庭医療後期研修調査の依頼書を会員に向けて送付し、36施設より返事があったことが報告された。

山田会長より、執行部では、若手医師調査研究グループと家庭医療プログラム検討委員会の第1回目の合同会議の開催、及び専門医認定検討委員会を若手医師の会と合同で開催したい旨が述べられた。協議の結果、後期研修を協議する会合を9月の土曜日に開催し、行程表を決めること、旅費には学会で実費負担であることが了承された。

（2）患者教育ワーキンググループ

松下運営委員より、今年度は横谷先生、藤原先生が主体となって運営されていることが報告された。また、途中からのメンバーの推薦について了承された。

（3）FDについてのワーキンググループ

岡田運営委員より、現在は個人的なプロジェクトとして動いており、今年は費用を取らず、14人が参加しているなどが報告された。論議の中で、学会として事業化することが提案され、事業計画書を作成することが提案された。また、ワーキンググループを作るプロセスを明確化し、会報およびホームページで公募することとなった。

6. 若手家庭医部会《若手家庭医部会セミナー》

（1）「臨床研究初学者のための勉強会」

山本運営委員より、メンバーと研究委員会の先生との協力により、会を進めて行く予定であり、家庭医療後期研修の調査に関しては、2月にワークショップの開催を検討中であることが報告された。

（2）若手家庭医部会WEBの立ち上げについて

山下運営委員より、若手家庭医部会の設立をWEB上で告知し、今後、学生・研修医部会のような形でWEBを開設すること、費用についてのサポートの承認を得たいなどの要望が出された。審議の結果、WEBのセクションを作ることが承認された。

8. 第21回（2006年）学術集会について

大園次期大会長より、第21回学術集会の準備状況について報告があった。

今回もプライマリケア学会との共同開催であり、両学会に所属している会員が多いことから、参加登録をどのように行うかについて論議され、今後の検討事項となった。

学術集会については、海外からの講師についても検討中であることが報告された。

家庭医療後期研修プログラム検討会　議事録

日　時：2005年9月3日
場　所：東京全共連ビル
参加者：家庭医療学会運営委員
　　若手家庭医療部会有志

5月の総会、運営委員会で承認を受けた家庭医療後期研修プログラムを学会として提案することに関して、上記の日時で参加可能の運営委員および家庭医療後期研修プログラム調査を行っている若手家庭医部会有志が集まり今後の進め方について協議した。

冒頭会長から8月30日に行われた家庭医療専門医に関する3学会（日本プライマリ・ケア学会、日本総合診療学会、日本家庭医療学会）での報告をもとに当学会の今後の方向性について報告した（協議概要は8月運営委員会議事録でも掲載）。今後家庭医療学会が必修化初年度の研修医を対象とした家庭医療後期研修プログラムの雛形を策定し3学会の協議に提案する。家庭医療後期研修プログラムの評価、認定を進めるにあたって家庭医療後期研修プログラムの研修責任者の会を組織していくことを説明した。

その後、参加者の後期研修プログラムに関する認識や、家庭医療の概念、プログラムを策定するにあたっての提案や要望等意見交換がなされた。

また後期研修プログラム調査の経過報告、運営委員から国内外の研修プログラム事例の紹介があり、それらを踏まえ今後の学会としての方向性が協議された。

最後に会長から資料をもとに学会の家庭医療専門医に関する考え方、プログラム認定と評価の方向性、今後のワークショップ開催予定に関する提案がなされ、大筋で合意を得た。

詳細はWebサイトをご覧ください。
（http://jafm.org/edu/20050903.html）

家庭医療学会　研究委員会からのお知らせ

研究補助金の公募について

家庭医療学会では、我が国の家庭医療の発展に寄与するため、すぐれた研究課題に対して研究補助金を交付することになりました。

概要は以下の通りです。詳しい公募要項につきましては、近日中にお知らせしますので、皆様ふるってご応募ください。

《家庭医療学会　研究補助金》

【研究テーマ】

１）課題研究「家庭医への期待」

近年、家庭医療は急速に普及してきていますが、その認知はまだまだ十分とは言えません。特に、医療の受け手である国民が、家庭医療をどのようにとらえ、どのようなサービスを提供してほしいと思っているのかという点についての情報がまだまだ不足しています。

このような背景を踏まえ、今回は国民の家庭医療への理解およびニーズに関する研究テーマを募集します。

２）自由研究
　（家庭医療に関するものであればテーマは自由）

【応募資格】家庭医療学会の会員であること
【募集件数】課題研究、自由研究合わせて３件
【補助金額】1件 20万円
【募集時期】本年11月を予定（詳細は近日中にアナウンスします）
【選考】研究委員会による予備選考を行ったのち、理事会で決定する
【条件】原則として3年以内に日本家庭医療学会誌「家庭医療」に原著論文を投稿すること

第1回 家庭医療後期研修プログラム構築のためのワークショップ

当学会では地域住民に信頼される次世代の家庭医を育てるために家庭医療後期研修プログラムの策定を学会の当面の最優先課題とし理事会（旧運営委員会）、総会での合意のもと会員共々全力で取り組んでおります。

「第1回　家庭医療後期研修プログラム構築のためのワークショップ」が、去る10月15日（土）、16日（日）に開かれました。当日の報告につきましては、近日、ホームページ上で公開の予定です。詳細はWebサイトをご覧ください。

（http://jafm.org/edu/20051015.html）

期　日：平成17年10月15日（土）～16日（日）
場　所：東京全共連ビル（東京永田町）
対象者：日本家庭医療学会理事（旧運営委員）、若手家庭医部会、現在家庭医療後期研修プログラムを運営している指導者、または将来立ち上げを計画している指導者（学会員に限る）

《日程》

10月15日（土）13時～18時
司会　竹村副会長
開会式
第１部　：施設紹介、自己紹介
第２部　：グループ討議・発表「今の日本に求められる家庭医像」
話題提供「日本の家庭医療を取り巻く状況」
担当　山田会長

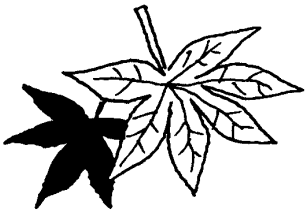
10月16日（日）8時半～12時
第３部　：グループ討議・発表「我々はどういう家庭医を育てようとするのか」
話題提供「家庭医療とは－今日本で求められる家庭医の姿－」
担当　葛西副会長
第4部　：グループ討議・発表「研修プログラム策定の要素」
話題提供「研修プログラム策定にあたって」
担当　大西弘高先生

お勧めＣＭＥコーナー

今回はCareNetcomをご紹介します。ケアネットテレビをご存知の方も多いと思いますが、プライマリ・ケアを対象とした画期的な生涯教育プログラムの一つです。

ケアネットテレビは衛星放送での受診が必要ですが、その番組内容で主役となる講師陣の講義の概要がインターネットで見れるのです。

http://www.carenet.com/ でアクセスして、会員登録（無料）すると様々なコンテンツを閲覧できます。



私の一番のお勧めは「週刊　達人通信」です。皮膚科、整形外科、小児科など様々な領域でプライマリ・ケア教育に関わっておられる講師陣のテレビでの講義内容が簡略化された図や文章でまとめられています。

その領域に特に興味を示された方はDVDを購入したり、その講師の出版物を購入することで衛星放送のない環境下でも十分ケアネットテレビの内容を享受できます。例として以下のような内容がありました。
◎平本式皮膚科虎の巻　実践道場シリーズ
◎極意！ Dr.仲田の「腰痛」道場
◎明解！ Dr.浅岡プロデュース「漢方診療日記」
興味がある方はぜひ一度、お試しください。

奈義ファミリークリニック　**松下　明**
akimat@mb.infoweb.ne.jp

リレー連載

診療所研修

東町ファミリークリニック
武田 伸二

家庭医のグループ診療

【始まり】

私たちの診療所は約20年前、この会の創設期より関わりのあった楢戸健次郎医師が、北海道の過疎地美流渡で町よりの委託を受け、家庭医療学の実践のために開業したことから始まりました。数年後、診療所での研修を希望する医師が複数加わったこともあって、隣町岩見沢にもう一つの診療所を開設、二つの診療所を複数の医師で運営する今の形の変則的なグループ診療がスタートしました。今年の４月、楢戸医師は海外医療協力の夢を実現し、ネパールに行かれましたが、現在も二つの診療所を4人の医師で管理するグループ診療の形態が継続されています。

診療所の特長は、開設期より若い医師が家庭医として研修できるような場所を提供することを一つの目的に挙げ、医学生の見学や研修医の実習を数多く受け入れてきました。このことが功を奏した面もあって、北海道の片田舎にもかかわらず常時入れ替わりの医師が確保され、グループ診療の形態が保たれ、研修の場が提供されています。

【診療体制】

二つの診療所の内、人口1000人あまりの過疎地にある美流渡診療所は医師一人の体制で、人口８万の岩見沢にある東町ファミリークリニックは普通外来担当の医師一人と予約診・訪問診療担当の医師一人の二人体制で動いています。標榜科は内科、小児科、外科、婦人科ですが、皮膚科や耳鼻科、眼科や精神科などの日常病に関しても診療範囲として治療対象としています。

夜間は月曜日から金曜日まで、過疎地の診療所で順番に当直をし、土･日曜は留守番電話と携帯電話を組み合わせた連絡体制で、常時当番の医師と連絡が取れるようにしています。

【診療風景】

美流渡は炭鉱が閉山した後の高齢化のかなり進んだ過疎地で、私たちの診療所が地域で唯一の医療機関なので、学校や保育所、地域の健康増進会、老人会の行事など、地域の健康に関することなら何でも関わっています。また地域に消防署はありますが、救急車は隣町から来るので、119番の通報があると外来診療中でも消防から声がかかり、往診かばんを持って現場に駆け付けることがあります。外来の患者さんもその辺は心得ていて、「お互い様ですよ」とこのような事態を受け入れてくださっています。都会と違って横のつながりが濃い地域の人達と係わりながら、予防医学から見取りまで幅広い分野での働きが期待されているところです。

岩見沢は中都市で、子供からお年寄りまで様々な年齢層の人達がいろいろな病気を抱えて受診されています。町から少し離れた静かな住宅地の中にあるので、半径2km以内の患者さんが7～8割と多い状況ですが、それでも半数の方が車で来院されています。外来を二人体制にしているので、急な往診などにもある程度対応が可能で、訪問診療患者さんも常時20～30名程抱えています。グループホームとの関わりやいくつかの訪問看護ステーション、周りの開業医や中核病院との連携など、診療活動は様々な医療･福祉機関と関わりながらかなり機能的に動いています。

【これから】

家庭医療学の実践の場、研修の場として始めた診療所ですが、特徴のある二つの診療所を複数の医師のグループで運営すると言うユニークさを引き続き受け継ぎながら、地域に求められる医師像を模索しながらこれからも歩んでゆく予定です。ご興味のある方、どうぞ見学にいらしてください。

Information

◎ 第13回家庭医の生涯教育のためのワークショップ ◎

日　時：2005年11月12日～13日
会　場：全共連ビル別館・本館（東京都千代田区）
　　東京都千代田区平河町2丁目7番9号
　　TEL. 0120-888-694
テーマ：『生活習慣病の診療』
お問い合わせ：日本家庭医療学会事務局
　　〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-14　天真ビル507号
　　あゆみコーポレーション内
　　Tel. 06-6449-7760　　Fax. 06-6447-0900
　　E-mail　jafm@a-youme.jp

※予想を遥かに超えるお申し込みをいただき、既に定員に達しました。

《プログラム》
内容と講師

12日（土）
　糖尿病診療のポイント …… 岩岡秀明氏
　高脂血症のエビデンスと私 …… 名郷直樹氏
　高齢者の高血圧 …… 桑島　巌氏

13日（日）
　(1)楽しく無理のない禁煙支援ノウハウ …… 高橋裕子氏
　(2)（7）『皮膚科は嫌いだ』から『ナ～ンだ、簡単じゃないか』へ …… 平本　力氏
　(3）外来でのインスリン導入のポイント …… 岩岡秀明氏
　(4）ウィメンズヘルス …… 井上真智子氏・西村真紀氏
　(5）外来でCOPDと上手につきあう方法 …… 亀井三博氏
　(6）(11）胸痛を訴える患者に対するアプローチ …… 伊賀幹二氏
　(8）(13）急性腰痛症 …… 仲田和正氏
　(9）頭痛：心配を納得に変えるために …… 池田正行氏
　(10）研修医のためのコミュニケーション・ワンダーランド …… 桜井　隆氏
　(12）家庭医のためのリハビリテーション入門 …… 若林秀隆氏・北西史直氏
　(14）しびれ：病歴だけで詰められる …… 池田正行氏

◎ 若手家庭医のための第１回家庭医療学冬期セミナーのご案内 ◎

（2005年10月28日現在）

日本家庭医療学会・若手家庭医部会では若手家庭医が施設の枠を越えて家庭医療を学習し、お互いの情報を共有し、若手家庭医同志および家庭医療を実践している先生との交流をもつ機会を提供することを目的として今回はじめてセミナーを開催することになりました。

詳細はまだ未定ですが、ご案内させて頂きます。

日　程　：2006年2月11日（土）～2月12日（日）
会　場　：東京・晴海グランドホテル
参加対象：若手家庭医（家庭医を目指し、家庭医後期研修をしている医師（初期臨床研修医は含めない））を主な対象としますが、本セミナーの趣旨に賛同し、家庭医を目指す初期研修医、及びプライマリケアに従事す

る医師のご参加も積極的に歓迎いたします。
参加人数：50名（予定）
参加費用：未定
プログラム：ワークショップ形式で２日間で数テーマの予定（2/11（土）夜に懇親会を予定しております）
プログラム内容：ワークショップテーマについては未定ですが、テーマについては以下の内容から検討しております。

〇家庭医療学のcore principles（患者中心の医療，家族志向型のケア，地域包括型ケアなど）
〇家庭医が遭遇するcommon problems（よくみられる症状や疾患，系統別問題，予防・健康増進など）
〇自らを振り返りながら家庭医として成長する生涯学習方法（ポートフォリオなど）
〇その他（EBMなど）

※詳細が決まり次第、改めてセミナーのご案内をさせていただく予定です。

◎ 第2回 家庭医療後期研修プログラム構築のためのワークショップ(案) ◎

期　日：平成17年11月19日（土）～20日（日）
場　所：東京都道府県会館（東京永田町）
対象者：日本家庭医療学会理事（旧運営委員）、若手家庭医部会、
現在家庭医療後期研修プログラムを運営している指導者、
または将来立ち上げを計画している指導者
（学会員に限る＊）
＊：非学会員の方は当日入会手続き
参加費：5,000円（懇親会費込み）
宿泊は各自お手配ください。

《日程》

11月19日（土）13時～18時

司会　竹村副会長

開会式

第1部：報告「企画、実践、評価」－第１回ワークショップ以後の動き－

・前回のワークショップ後、参加者の皆さんがそれぞれの現場で何を考え、行動し、今どのような状況かを発表していただく予定です。新しく参加する皆さんのために、自己紹介、施設紹介も兼ねてます。

第2部：特別講演「アメリカでの家庭医研修プログラムの実際と評価：米国Residency Review Committeeの視点」

講師：オレゴン健康科学大学家庭医療学科主任教授John W. Saultz先生

・米国の家庭医療研修プログラムの発展の歴史と課題、そしてResidency Review Committeeが実施する研修プログラム評価について解説いただき、日本で研修プログラムを構築することへの期待とアドバイスをお話いただく予定です。

懇親夕食会18時～

・Saultz先生も交え研修責任者間の交流と懇親を深めていただきます。

11月20日（日）8時半～12時

第3部：グループ討議・発表「よい研修プログラムの内容とは」

・前日のSaults教授の講演も参考にして、家庭医療後期研修プログラムの内容について考えます。学会の推奨する研修プログラム案についてのコンセンサス作りを目指します。

第4部：グループ討議・発表「ローカル・コンテクストの活かし方とネットワーク」

・研修プログラムの内容を診療所・病院でどのように組み合わせて実施するのかについて、いくつかのパターンを考えます。学会の推奨するスケジューリング案についてのコンセンサス作りを目指します。

事務局からのお知らせ

メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約600名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

◎参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

◎目　的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけたら幸いです。

◎禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をこのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

◎加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mailで申し込んでください。

○会員番号（学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています）
○氏名
○勤務先・学校名
○メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

事務局メールアドレス：E-mail : jafm@a-youme.jp

入会手続について

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続については、学会のホームページの「入会案内」をご覧になるか、事務局までお問い合せください。

会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されますと、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届をしてください。異動届は学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛にE-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

日本家庭医療学会事務局

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-14 天真ビル507号
あゆみコーポレーション内
TEL 06-6449-7760／FAX 06-6447-0900
E-mail : jafm@a-youme.jp
ホームページ : http//jafm.org/

編集後記

年4回の会報発行を目指して、内容を編集しましたが、最近の家庭医療学会の変化が激しく、かなり盛りだくさんの内容となりました。

これまでの生涯教育ワークショップに加えて、若手家庭医によるセミナーの開催や後期研修プログラム構築のためのワークショップなど、入り組んだ構成です。

家庭医療学会のホームページを定期的にチェックしていただき、どんな内容が企画されているのか、ぜひ確認していただきたいと思います。

発行所：日本家庭医療学会事務局
（あゆみコーポレーション内）
会報誌担当役員：木戸友幸・田坂佳千
会報誌編集担当役員：松下　明
〒708-1323　岡山県勝田郡奈義町豊沢292-1
奈義ファミリークリニック
E-mail : akimat@mb.infoweb.ne.jp